

令和4年度 学校関係者評価書（後期）

南アルプス市立大明小学校 学校関係者評価委員会

1 評価実施日 令和5年1月13日から1月23日の間

2 評価の方法

コロナウィルス感染拡大のため、評価委員の年齢や健康を考慮し、今回も一堂に会しての評価委員会の開催を控えました。各評価委員には、学校から送付された自己評価書等をもとに書面によりに意見を提出していただき、それをもとに評価委員長が「学校関係者評価書」を作成しました。

3 評価者

学校関係者評価委員 石川正人（委員長） 長田良子 市川和男 市川政子
高野晃史 山本幸希 平井ひとみ
自己評価書の作成 三井 保（校長） 横澤敏英（教頭） 小泉昭市（教務主任）

4 評価のための資料

コロナ禍のため、直接学校を訪れる機会がほぼなかった評価委員も多かったため、以下を評価のための資料としました。

- 自己評価書「大明小学校の教育について（アンケート集計結果）」のデータや考察
- 大明小学校ホームページ ○時折目にする児童の様子や地域の方々の話
- 教育関連の報道や情報 ○日ごろ考えていることや知りたいと思っていること

5 今回の評価の視点

- (1) 大明小学校の評価すべき活動（長所）
- (2) 課題として検討が必要なこと
- (3) 教職員へのメッセージやお願い
- (4) 保護者へのメッセージやお願い

6 学校関係者評価

(1) 大明小学校の評価すべき活動（長所）

学校からの情報発信が適切に行われていることがよくわかります。保護者アンケートでも「学校からの文書や連絡等は適切である」について肯定的評価のAとBが100%となり、

- コロナ禍にもかかわらず、保護者や地域に学校や児童の様子を伝えていこう、知ってもらおうという先生方の強い思いが感じられ感激した。（学校関係者評価委員）

という意見もいただきました。

また、ホームページが有効に活用され、学校の活動の様子がこまめに発信されていたり、校長だよりで教育観が提示されたりと、積極的な発信が行われていました。その結果、保護者アンケートの記述や評価委員の意見からも

○教職員と保護者が教育活動や子育てについて共有している。(学校関係者評価委員)
ことが見て取れました

この他にも、評価委員からは、

○「大明小ばやし」を長きにわたって維持し、毎年素晴らしい演奏を披露している

○多くの児童が、学校へ行くことを楽しいと感じているのがわかる。

など、肯定的なコメントが寄せられています。

よい評価とは、逆に言うと「このようにしてほしい」「このことをより充実させてほしい」という強い要請や願いでもあります。学校や教職員のご尽力に心から敬意を表するとともに、今後の大明小教育に期待しています。

(2) 課題として検討が必要なこと

学校の自己評価、保護者アンケートの記述等からも、「あいさつ」が課題としてあげられます。もちろん児童により個人差はありますが、

○見守りの方にあいさつを返している小学生は少ない。中学生は言えているのに・・・」

○こちらから声をかけてもほとんどの子が無言だった」(保護者アンケートより)

ということもあるようです。

コロナ禍で人間関係が希薄になってきている今こそ、コミュニケーションの第1歩である「あいさつ」は大切です。「あいさつ」するとどんないいことがあるのか児童に考えさせたり、人はなぜ「あいさつ」をするようになったのか(注:「私はあなたの敵ではない」という意思表示が「あいさつ」になったそうです。)を教えたり、実際にしっかり声を出してあいさつする練習をしたり、各学級や家庭で工夫して取り組んでみてください。また、

○「おはようございます」以外のあいさつを学級内でしっかり行わせる。

○「おはようございます」だけでなく、「さようなら」「はい」「ありがとう」など返事も含めて指導していく必要がある。(教職員自己評価より)

○その場にふさわしいいろいろなあいさつができるよう、学校・家庭・地域で大人が根気よく地道に声かけをしたり、見せたり、聞かせたりしていくことが大切です。

(学校関係者評価委員)

のように、多様な「あいさつ」や表現の仕方を、学校・家庭・地域が連携して伝えていきましょう。

この他にも、評価委員からは、

○携帯電話の使用について、保護者向けの学習会・講習会の検討を・・・。

○学校や先生の考えがわからない、見えないことが、保護者の不安につながる。共通理解やコミュニケーションを取り合える機会や方法を考え実践を・・・。

○多様な専門家の支援による相談体制がとれるといい。

○報道される子どもに対する大きな事件がとても心配です。みんなで注意を・・・。

などの提言をいただいています。

(3) 教職員へのメッセージやお願い

評価委員の全員が、コロナ禍にあっても果敢に日々の教育活動を進めている教職員の激務を気かけ、熱いエールを送っています。

○たいへん大事な職業であることを今更ながらに考えさせられる。

○先生方が楽しく、児童たちだけのことを考えて仕事ができる環境をつくりたい。

(学校関係者評価委員)

また、保護者からも、

○日ごろから、学校、担任の先生には感謝しかありません。(保護者アンケートより)に代表されるように、教職員への感謝の言葉がたくさん寄せられています。

評価委員はじめ、保護者も多くの方が、教職員の置かれている状況を理解し、心からの感謝と激励の気持ちを抱いています。どうか心身の健康には十分留意され、大明小教育のためにご尽力をお願いします。

また、教職員が持っている力を十分発揮できるためにも、教職員アンケートの中に、勤務状況を振り返ったり、より働きやすい環境を工夫できるような項目もしくは記述欄をご検討ください。

(4) 保護者へのメッセージやお願い

保護者は、「子どもへの教育」というサービスを受ける消費者としての立場だけでなく、教職員や地域と並び、子どもたちの教育に直接携わる当事者でもあります。

その意味でも、学校には、保護者アンケートの中に、保護者自身が自分たちの家庭教育を振り返るような項目をご検討いただければ幸いです。

また、評価委員から、

○地域の様子からも、保護者が日々の生活の維持と子育てに苦悩しながらも懸命にがんばっている様子が感じられる。側面より応援させていただきます。

○仕事や子育てで大変ですが、学校の先生や周りの人をもう少し信じて、みんなで子育てをしていきましょう。

○大切な子どもたちの成長を見守り、自分もいっしょに楽しみながら成長してみてもはというような、子育ての大変さへの理解と激励の声も届いています。

さらに、

○先生方の助けになりたいと考えている保護者も多くいます。保護者といっしょに学校をよくしていけばいいのではないのでしょうか。

という保護者自身の力強い意見もあります。

ぜひ自分自身も「教育の協働生産者」であるという自覚のもと、教職員や地域と力を合わせ、大明小教育の一翼を担っていつてくれることを期待します。

令和5年2月1日

文 責 石川 正人 (委員長)
評価書作成事務 横澤 敏英 (教頭)